

ももとせ

第426号

29年度3月

中野区立桃園小学校

「29年度の終わりに」

校長 田中 憲治

梅の花が満開となり、日増しに春めいてまいりました。平成29年度も後1か月を残すのみとなりました。保護者の皆様方、地域の皆様方、この1年間の桃園小学校の教育活動へのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

さて、6年生にとって、この3月は特別な思いのある月となります。もうすぐ卒業、そして中学校への旅立ちです。先日は、桃園小学校最後の移杖式が行われました。鼓笛隊を引っ張ってきた6年生から5年生へのバトンタッチです。演奏にも言葉にも、6年生としてやりきった満足感が感じられました。一方5年生の演奏には、伝統の鼓笛隊を受け継ぐ緊張感と責任感があふれていました。

6年生は、さまざまな行事などを迎えるたびに、これが小学校生活最後の活動という思いで一人一人が努力を積み重ねてきました。そのような思いが、卒業アルバムの中に、「友達」「夢や希望」「仲間」「協力」「感謝」「努力」などの言葉として散りばめられていました。これらの言葉を目にしたとき、今年お迎えした、オリンピック・パラリンピックのアスリートの方々から伺ったお話のことを思い出します。どの選手も「夢」「努力」「仲間」「希望」「感謝」について話されていました。どんなときにも前向きに、一人でなく仲間とともに励まし合って生きていくことが大切であることを学びました。小学校生活を送りながら子供たちが感じて思ってきたことも同じなのだと思います。

この6年生とのお別れももうすぐとなりました。明日が「6年生を送る会」とあおぎり班での「お別れ給食」です。在校生がお世話になった6年生への感謝の気持ちを表し、これからの活躍を期待する会となります。

ところで、2月は、4年に一度の冬のオリンピックが韓国の平昌（ピョンチャン）で行われました。過去最多の13個のメダル獲得（金4、銀5、銅4）で盛り上がりただけでなく、ドラマがたくさんありました。

今回男子フィギュアスケートで、金メダルを取り、ソチ五輪からの2連覇を果たした羽生結弦選手は、怪我と戦い、栄冠をつかみました。精神的にもタフな姿は、まさに「絶対王者」のたたまいでした。「自分の幸せがみんなの幸せに、そして多くの人への感謝を」の言葉が印象的でした。また、スピードスケートの小平奈緒選手は1500m銀メダル、500m金メダルでした。500mでは、韓国の李相花（イ・サンファ）選手が銀メダルでしたが、ライバルでもあり友人でもある2人が「チャレソ」（よくやったね）と互いをたたえ合い、抱き合う姿が素晴らしいと称賛されました。さらに高木菜那・美帆選手姉妹の人一倍の努力の結果の5個のメダル。そして高梨沙羅選手はジャンプで銅メダル。同じく銅メダルのカーリング女子チームからは、「自分たちを信じていけば、メダルも夢じゃない」という声が聞かれました。競技をする姿やたくさん感動的な言葉を通し、スポーツの素晴らしさを改めて実感できた大会となりました。3月にはパラリンピックが開催されます。こちらにも応援したいと思います。

最後になりますが、次年度の平成30年度をもって、中野区立桃園小学校は閉校し、向台小学校と統合されます。新校の名前は中野区立中野第一小学校（仮称）です。次年度は、何事においても「最後の」が付いていきますが、最後にふさわしい内容を保護者・地域の皆様と共に考えていきたいと思っています。どのような新校ができていくのか、統合ニュースだけでなく、随時お知らせしていきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

今月のめあて

【生活】学校をきれいにしよう

【保健】健康と生活を振り返ろう

【給食】自分の食生活を振り返ろう

【安全】けがに気をつけ、手当てを知ろう

